

化学工学実験（化学工学） 回分反応器を用いた反応速度解析

実験レポート作成要領

実験者が「どのような実験を、どのような原理に基づき、どのような装置を用い、どのような手順で行い、どのような結果が得られ、その結果に対してどのように考察を行ったか」を、第三者に明瞭かつ簡潔に報告するものが実験レポートである。本紙は一般的な実験レポートの書き方の基本事項を纏めたものである。

(1) 用紙サイズ

原則 A4 用紙。

パソコン・ワープロソフト使用可(但し、「課題」・「考察」の部分はボールペンによる自筆で丁寧に)。

(2) 表紙

表紙には、「実験題目」、「実験日時」、「入学年度・学生番号・氏名」、「グループ番号・共同実験者名」、「レポート提出日」を記入する。

(3) 内容

一般的な流れは、「目的」、「原理」、「実験装置と操作手順」、「実験結果」、「レポート課題に対する解答」、「考察」、「結論」である。なお、本実験に限り、「目的」、「原理」、「実験装置と操作手順」については、明確かつ簡潔に、A4 用紙 1~2 枚以内にまとめること。

(4) 表の書き方

表には番号を付ける。

標題は表の上部に、具体的な内容がわかるように書く。

数値は有効数字を示し、単位を明確にする。

罫線はできるだけ少なくする。

斜線や縦線は極力避ける。

Table 1 Volume flow rate [mL/min.].

①	②	③	④	⑤	Total
3.89	3.90	3.81	3.89	3.89	19.39
4.86	2.02	4.36	4.35	4.17	19.76
5.52	0.47	4.75	4.69	4.37	19.81

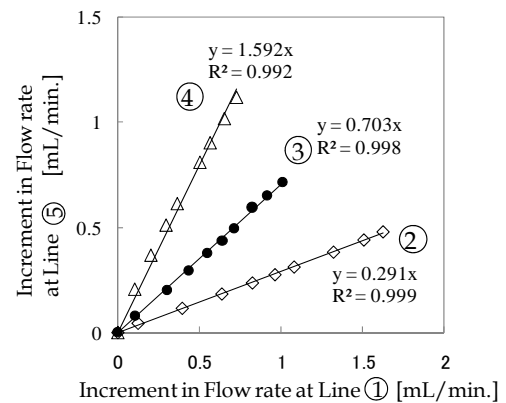
(5) 図の書き方

座標軸には目盛を示す。

目盛線は座標軸の内側に、外側に数字を書くことよい。

図の番号と題名は図の下に書く。

表の書き方と同じ注意が必要である。



(6) その他

科学文は「である」調で書くこと。

主語と述語の一致に注意すること。

数値は有効数字を示し、単位を明確にする。

ページ番号を忘れずに。

誤字脱字に注意すること。

自分の成果と他人の成果を区別して書くこと。

参考文献については、引用元と引用先を明記すること。

ホッチキスはレポート左上に 1 箇所留めるだけでよい。

提出期限を守ること。

Figure 1 Relation between Line ① and Line ⑤ on blockage occurrence.

以上

(文責 殿村)